

授業科目名	教養特別講座		
職名	教授	担当教員名	大谷 孝行 他
開講時期	1年・2年・3年・4年後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2

授業の概要	笑いを高度に発達させた生物は人間だけです。その人間の笑いを様々な側面から考察し、笑いの特徴や奥深さについて理解するとともに、ままたらぬ人生を前向きに前進する力を身につけます。			
キーワード	笑い	健康	ユーモア	演芸
到達目標	①「笑いの理論」を理解し、この理論から日常の笑いを分析することができる。 ②様々な日本の演芸の特徴を理解し、その魅力を他者に説明することができる。 ③「ユーモア」についての理解を深め、ユーモア精神で人生を歩むことができる。			

現代社会学部

ディプロマポリシー	1.「人」としての能力(人間性の向上)	4.社会人としての能力(社会性の向上)
カリキュラムポリシー	①現代社会に必要な基礎知識の向上	⑥幅広く多様な専門知識の修得

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
◎		○		

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学習指導・自主活動
◎	○	○			

授業計画

回数	授業内容詳細
2022年 第1回-2月21日(月)1限	本講座の概要、笑いを「笑いの理論」から理解する 本講座の全体的な内容を説明するとともに、人がなぜ笑うのかについて説明した「笑いの理論」のうち、代表的な「優越の理論」、「ズレの理論」、「ストレス発散理論」、「愉快な心理的転移説」について、文献や実例を参照しながら詳しく解説します。また、笑うのは動物の中で人間だけなのかについて、霊長類学の知見も紹介しながら、人間の笑いについて考えます。
第2回-2月21日(月)2限	日本の芸能の理解を深める(1) 笑いに関する日本の芸能のうち、「漫才」の特徴について解説します。特に「ボケ」と「ツッコミ」について説明し、実例を参照しながら漫才を鑑賞します。
第3回-2月21日(月)3限	日本の芸能の理解を深める(2) 笑いに関する日本の芸能のうち、「落語」の特徴について解説します。一人話芸の代表である落語の魅力の説明し、実例を参照しながら落語を鑑賞します。
第4回-2月21日(月)4限	1日目の総復習 笑いの特徴の一つである「二元結合」という点を理解し、言葉の遊びとしてダジャレを作ってみます。また、4コマ漫画のオチを自分で想像する作業をします。
第5回-2月22日(火)1限	日本の芸能の理解を深める(3) 笑いに関する日本の芸能のうち、「コント・喜劇・一人芸」の特徴について解説します。実例を参照しながらコント・喜劇・一人芸を鑑賞します。
第6回-2月22日(火)2限	大阪の笑いに学ぶ(1) 笑いについて独自の発展を遂げた地域が大阪です。その大阪の笑いの特徴について理解を深めます。大阪の人なら誰もが知る「吉本新喜劇」や、関西地方では有名な長寿番組「探偵!ナイトスクープ」の笑いについても実例を紹介しながら解説します。
第7回-2月22日(火)3限	人生におけるピンチと笑いについて考える 人生で困難に直面したとき、自分で悩みを深めてしまう生き方でなく、困難を乗り越えるために笑いをうまく活用することについて考えます。フランクルの『夜と霧』、神経症(ノイローゼ)と笑い、自分を笑い飛ばす自虐ネタについて学びます。
第8回-2月22日(火)4限	2日目の総復習 困難を笑いに変える方法としての川柳について学びます。自分を笑い飛ばす川柳を作ってみましょう。
第9回-2月24日(木)1限	映画『男はつらいよ』に学ぶ人生観(1) 喜劇俳優・渥美清が演じた国民的映画『男はつらいよ』は、一人の俳優が主人公を演じたシリーズ映画としては、異例の48作まで続いたギネス記録にもなっている作品です。この映画について、特に「情」という点から考察しながら、その魅力に迫ります。
第10回-2月24日(木)2限	映画『男はつらいよ』に学ぶ人生観(2) 映画『男はつらいよ』の特徴として、喜劇的側面をもつほかに、その時代時代の社会問題をも扱った作品が多く見られます。映画を鑑賞しながら、日本が置かれている社会問題について考えてみましょう。
第11回-2月24日(木)3限	「老いと笑い」について考える 少子高齢化社会という日本の現状の中で、老いと笑いについて考えましょう。老いを単に否定的に捉えるのではなく、笑いとの関係で積極的に老いを捉え返すことを学びましょう。
第12回-2月24日(木)4限	「幸福と笑い」について考える 笑いは心身の健康に効果的であるため、笑いを健康のために活用する「笑い療法」も存在します。笑いが身体に及ぼす影響について学び、人生で笑うことを忘れないユーモア精神についても学びましょう。
第13回-2月25日(金)1限	「マナー・しぐさ」とコミュニケーション①(前富山国際大学准教授/本学客員准教授 斎藤 敏子 氏) ことばと態度を融合させた、しぐさやマナーの視点から伝えるコツを聞く。
第14回-2月25日(金)2限	「マナー・しぐさ」とコミュニケーション②(前富山国際大学准教授/本学客員准教授 斎藤 敏子 氏) ことばと態度を融合させた、しぐさやマナーの視点から伝えるコツを聞く。
第15回-2月25日(金)3限	「マナー・しぐさ」とコミュニケーション③(前富山国際大学准教授/本学客員准教授 斎藤 敏子 氏) 4日目の総復習として、また笑顔を忘れないユーモア精神で、簡単なスピーチをしてみましょう。

評価方法	到達目標1・2については、課題の提出を中心に評価します。(80%) 到達目標3については、発表を中心に評価します。(20%) なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 ①人間性:80%、②社会性:20%	
使用資料<テキスト>	テキストは特に使用しません。授業の時にレジユメや資料を配布します。	使用資料<参考図書> 授業中、随時指定します。
授業外学修等	集中講義のため、1日の授業が終了したら、その日の学びの内容について、事後の復習を必ず行ってください。	
授業外質問方法	大谷のメールアドレス(otani@tuins.ac.jp)に随時、質問を送ってください。	

1日の時間割(第1~15回)

1時限目 9:00~10:30 2時限目 10:40~12:10 3時限目 13:00~14:30 4時限目 14:40~16:10